

学長就任に思う

木 枝 燦

この度図らずも伝統ある同志社大学の学長職を継ぐこととなり、四月一日就任以降、日々その責任の重大さを痛感してまいりました。時あたかも私立大学における一連の不祥事件が行政管理庁による行政監察結果の報告書にとりあげられ、勧告事例が新聞などを通じて報道されました。私立大学がわが国の高等教育に果たしてきた大きな役割と功績を否定することはできませんが、長年にわたって培われてきた社会的信頼を一挙に失いかねないような不祥事が起こったことは残念でなりません。私立大学批判の中には誤解もあるようで、例えば学校法人会計基準は企業会計とは異なるものであることなどは、詳しい説明が必要でしょう。しかし社会的な客観性からみて、拭い難い汚点がいくつか指摘されました。そこで、私立大学連盟などの七団体からなる全私学連合は七月に申し合わせを行って、国民の信頼と尊敬を高めるよう自戒自浄の努力を誓ったのであります。

私立学校が官公立学校と本質的に異なる点の一つは、前者が自ら財政を支えねばならないこととあります。営利企業が経営する学校もないことはありませんが、私立学校の経営は、財政の大きな部分を学費によることに基盤を置いております。その学費の大部分は学生の保護者の負担であり、保護者の方々は一方では税金によって国公立大学を支えると共に、他方子女のために同志社大学を支えるべき学費を同時に負担して頂いているのであります。

さらに、校友を初め社会の各方面から寄せられる寄付金、および納税者の一人一人の寄与である国庫補助金があります。これら三者は正に浄財であり、一円といえども疎かにすることはできません。この浄財に支えられるわれわれの教学活動は、学生を初めとして社会一般に還元されねばならず、仮にも教学に名を借りてそれを聖域化し、われわれが依って立つ経済的ルールにもとるようなことがあってはなりません。例えば教員は教学の仕事をすることによって給与を獲得しているのであり、何らかの特権のようにそれを享受しているではありません。このことをわれわれ教職員は絶えず念頭におかなければならぬと考えます。

さて、わたくしは昨年度久し振りに一年次生の専門科目を担当することになり、相当な意気込みをもってこれに当りました。従来に比べてより丁寧に、より分かり易いように気を配って授業を行ったのであります。熱意のない学生に対しては机をたたいて怒鳴ったこともあります。そして試験の結果に大きな期待を寄せたのですが、がっくりと落胆せざるをえませんでした。教室における一

年次生はまだ専門知識に対する欲望は薄く、赤信号もみんなで渡れば恐くない式の怠け心が意識の底流にあるように思われます。しかし四年次生となって卒業研究遂行に当っては、よく努力しております。問題なのはその際、原理的な面での理解が甚しく貧弱であることです。最小限必要な原理的諸事項を誰がいつどこで教えるのか、カリキュラム上の総合的な反省も必要でしょう。

戦後の大学の歩みを見ると、骨組みは変わらないながら肉付きや表情は随分変わってきたと思います。学生があの特徴的な角帽と制服を棄てた頃から勉学の態度も変わり、非個性的となりました。制服から脱却することにより、より自由な個の確立が成し遂げられるかと思われたのですが、多様化の名のもとに学問への自律的な精進が失われたのです。これでは学問の歴史的発展とは程遠い鬼子の創造しか生まれないのではないのでしょうか。角帽に代ってヘルメットと覆面が登場しましたが、その大学紛争も英国人が幼稚園革命と冷笑した文化大革命と命運を共にするかのよう、幾多の傷を残したまま実務の時代にはいりました。あの時無能の専門馬鹿と罵倒された教員の研究活動は旺盛となり、成果は国際的に評価され、大学の地位を高めていることは同慶の至りであります。新制大学が発足したところ、やはり英国人に、必要な大量の大学教員をどうして養成するのかと皮肉られた困難は克服されたと考えてよいでしょう。

一方、先に述べたようにわたくしの個人的経験の範囲内だけのことも知れませんが、学生諸君は専門の分野を一般的な教養として十分消化せずに受けてっている向きがあります。正課の活動の

外に課外生活をも含めた意味で、大学生活をエンジョイしております。そのことは新制大学の目的にかなう面も大きいと思います。

しかしながら、多岐に分化し深く追求されている学問領域における研究を維持し推進するためには、やはり専門領域での相当深い教育も必要であります。そこで、長期的視野に立った大学教育問題の総合的検討が極めて肝要であろうと考えます。

最後に、大学の田辺用地利用については、工学部移設、正課体育施設新設に加えて、第Ⅰ部文科系学部一、二年次の教育をそこで行うことが大学評議会で決定されております。何よりもまずこれを実現するよう全学的な努力を続けなければならないと考えております。

これまでも多大の努力が傾注されてまいりましたが、一般的な希望と予測を踏まえ、総合的な立場から教学と財政計画を検討するため学長の委嘱する二つの諮問委員会が発足し、実施計画方針実現のため学長試案作成の基礎づくりに活動して頂いております。大学の次の発展のため、皆様方のご協力を心からお願ひ申し上げる次第であります。

（同志社大学長）

私学同志社の使命

中村 幸久

十分な心構えもないうちに就任の期を迎え、以後早くも一学期が終わろうとしています。この間教職員諸氏の協力のもとになんとか今日まで任を果たしてきた、というのが実感です。

今改めて思うのは私学同志社の伝統の重さです。創立以来この同志社で多くの教職員が働き、多くの学生、生徒が学んでいきました。そしてその人達が築き、残してくれた精神的、物質的遺産によって同志社があり、この同志社中学校が存在しているということです。特に銘記すべきはなんと言っても創立者新島襄が残した精神的遺産の重さです。国公立の学校があまたある中で私学存在の意味、なかならず生徒収容という数量的側面からは何ら存在の意味を持たない私立中学校においてはなおさらその意味の明確な確認が必要と考えます。

新島がこの問題について述べていることは今も生きていると思うのです。新島は次のように語っています（以下同志社大学設立の旨意、口語訳より）。「教育事業というものは、これをことごとく

みな政府の手にまかせてしまうことが、はなはだ良策であるとはわたしは信じない。いやしくも、国民たるものが、わが家の子弟を教育するのは、これは実に国民としての義務であって、決してこれを避けるべきでないと信じている。」さらに、この教育事業を「政府の手にのみまかせておくことは依頼心のもっともはなはだしいもの」であると述べています。この依頼心を捨てて「人民の手で設立した」学校においてはじめて「自治自立の人民を養成」しうる、これこそが私学の使命であり、その存在の意味であると言っているのです。これはまた私学の基本理念とも言えるのではないのでしょうか。公費による助成がされているとは言え、私学経営は相変わらず苦しい現状です。教育条件も国公立に比べ決していいとは言えません。そこで学ぶ学生、生徒その家庭は大きな経済的負担を強いられています。それでも私学は存在しています、いや存在しなければならないのです。国公立による教育事業に安易に依存し、苦勞、負担の多い私学存立の「国民としての義務」をわたしたちが放棄する時、国民の自治自立の精神は大きく後退することでしょう。

新島をして人間の「自治自立」の大切さを気づかせたものはなんでしょうか。わたしはこれが聖書であると思います。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ福音書三章十六節) 神に愛された者はひとりとして、滅びることがあつてはならない、ここに新島の自治自立の思想の根本があります。これはまたキリスト教による人格教育をも示すものです。同志社のこの精神が時代の流れの中でかたんに消え去るものであつてはならないのです。

創立者の精神を今一度確かめ、私学同志社の使命を見直すところから出発したいと思います。

(同志社中学校長)